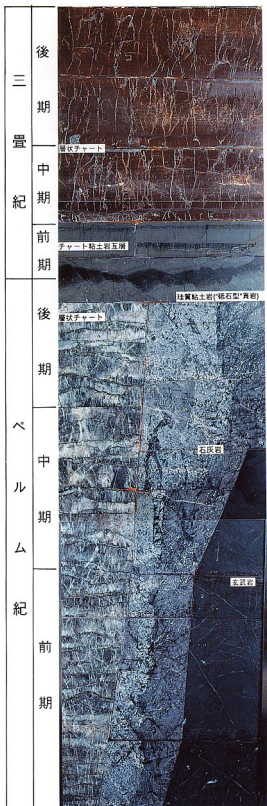


地質標本館新規展示「付加体の形成と放散虫化石」

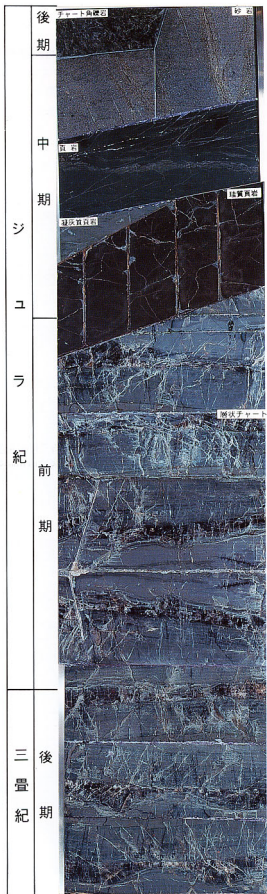
地質標本館では第1展示室に新たに付加体形成と放散虫化石層序に関する展示を設けました(口絵1)。日本列島の背骨ともいえる付加体の形成に関して研究の進んでいる美濃帯を例として展示しています。本展示の特徴として、当時の海洋プレート上の堆積シーケンスを復元した柱状模型に実物の岩石の研磨片を用いていること(口絵2)、放散虫化石の復元拡大模型3点(表紙及び口絵4a, b)を設置し、放散虫化石層序を解説していること、現生放散虫の観察ビデオを用いて放散虫を生物学的に理解できるようにしていることがあげられます。(詳しくは本文7-13頁参照) <地質調査所 地質標本館 利光誠一、地質調査所 地質部 斎藤 真>



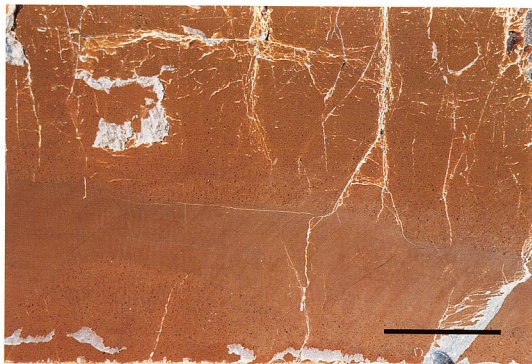
1. 展示の全景.



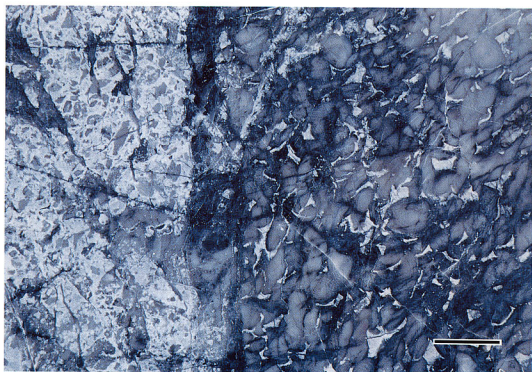
2. ジュラ紀付加体から復元された海洋プレート層序。美濃帯の岩石を切斷・研磨して作成。幅25cm、高さ約2mに及ぶ。



口絵2の岩石中には放散虫の他、紡錘虫やコノドント等の化石が含まれています。実際に、研磨片の中で放散虫化石や紡錘虫化石を観察できます。展示ではルーペを設置して自分の目でこれらの化石を観察できるようにしています。放散虫化石は直径約0.5mm以下の小さな“点”として観察できます(口絵3a)。一方、紡錘虫化石は直径数mmほどあり(口絵3b)、肉眼でも容易に観察できます。

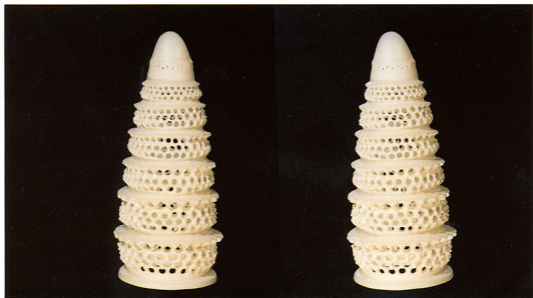


3a. たくさんの放散虫化石の観察できる三畳紀赤色チャート。直径0.1~0.5mmの暗色の“点”として見える。登録番号：GSJ R63867。産地：岐阜県各務原市鶴沼。スケールバー1cm。

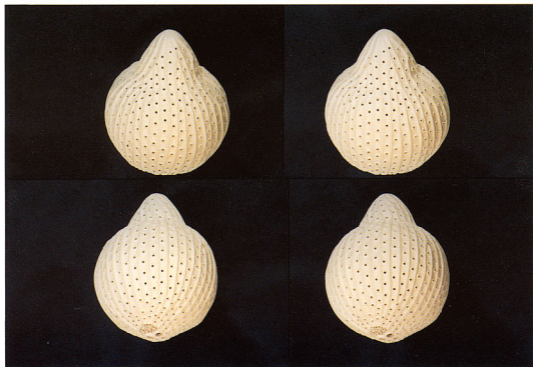


3b. ペルム紀石灰岩中に見られる紡錘虫化石。石灰岩は角礫化している。登録番号：GSJ R63874。産地：岐阜県揖斐郡久瀬村乙原。スケールバー1cm。

放射虫化石復元拡大模型：本展示ではベルム紀からジュラ紀の代表的な12種の放射虫化石の拡大写真と3種の放射虫化石の拡大模型を設置しています。このうち、模型はベルム紀後期の“*Neobaillella ornithoformis* Takemura et Nakaseko”（表紙）と三畳紀中～後期の“*Triassocampe deweveri* (Nakaseko et Nishimura)”（口絵4a）、ジュラ紀中～後期の“*Tricolocapsa plicarum* Yao”（口絵4b）で、ともに1,500倍ほどに拡大しています。



4a. “*Triassocampe deweveri* (Nakaseko et Nishimura)” のステレオ写真。高さ約30cm。平行法による立体視が可能。



4b. “*Tricolocapsa plicarum* Yao” のステレオ写真。側面やや上方及び下方から撮影。高さ約20cm。平行法による立体視が可能。